

令和6（2024）年度
事業計画書

（令和6（2024）年4月1日から令和7（2025）年3月31日まで）

目次

本年度事業計画について.....	1
I. 長期構想および中期計画.....	2
II. 重点施策.....	3
1. 教育開発センターの機能強化と全学横断的教育の充実	3
2. 学生の多様性に応じた支援.....	3
3. 学内共同・産学共同研究の推進による研究環境の改善	3
4. キャンパス・マスタープランに基づく持続可能な キャンパスづくりの推進体制の構築	4
III. 主たる事業.....	5
<大学>	5
教育.....	5
研究.....	8
学生支援.....	9
地域・社会貢献.....	12
<付属中高>	14
教育.....	14
生徒支援.....	15
生徒募集.....	15
<基盤>	16
施設・設備.....	16
管理運営.....	16
経営.....	18
財務.....	19

建学の精神

大学

中学・高等学校

- 一、真実を求め至誠を捧げよう
- 一、正義を尊び邪悪を除こう
- 一、和平を願い人類に尽そう

行学二道

本年度事業計画について



立正大学学園の使命は「真実を求め人類社会の平和の実現を念願する立正精神に基づく教育を行い、有能な人材を育成する」という寄附行為に謳われた目的を遂行し、国内外の社会の発展に寄与すべき教育・研究活動とその体制を整備して未来像を描くことです。特に「社会貢献」を重視したことは、「立正安国論」に示された「立正精神」を継承し、正しきを立てて国や社会の平安と人びとの安寧実現を目指す事に通じてまいります。

令和4（2022）年度には開校150周年の節目を迎え、本学園の更なる発展を期し、長期構想「立正グランドデザイン」を発表しました。それに基づく第2次中期計画1年目の令和5年（2023）年度では、教育研究活動のDX化や教学マネジメントシステムの構築、多様化する学生への支援体制整備等、社会ニーズへの対応、さらには特色ある教育プログラムの開発や研究支援ならびに地域連携、アフターコロナを見据えた正課外活動への支援等の事業活動を展開してまいりました。また、開校150周年記念事業は、令和5年10月をもちまして無事終了いたしましたことをご報告申し上げますとともに、学内外から多くのご寄付・ご支援・ご協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

第2次中期計画2年目の令和6（2024）年度の取り組みは、教育支援として「教育開発センターの機能強化と全学横断的教育の充実」、学生支援として「学生の多様性に応じた支援」、研究支援として「学内共同・産学共同研究の推進による研究環境の改善」、施設・設備として「キャンパス・マスタープランに基づく持続可能なキャンパスづくりの推進体制の構築」等を通して学園としての活力をさらに高めるための事業を重視した内容としています。

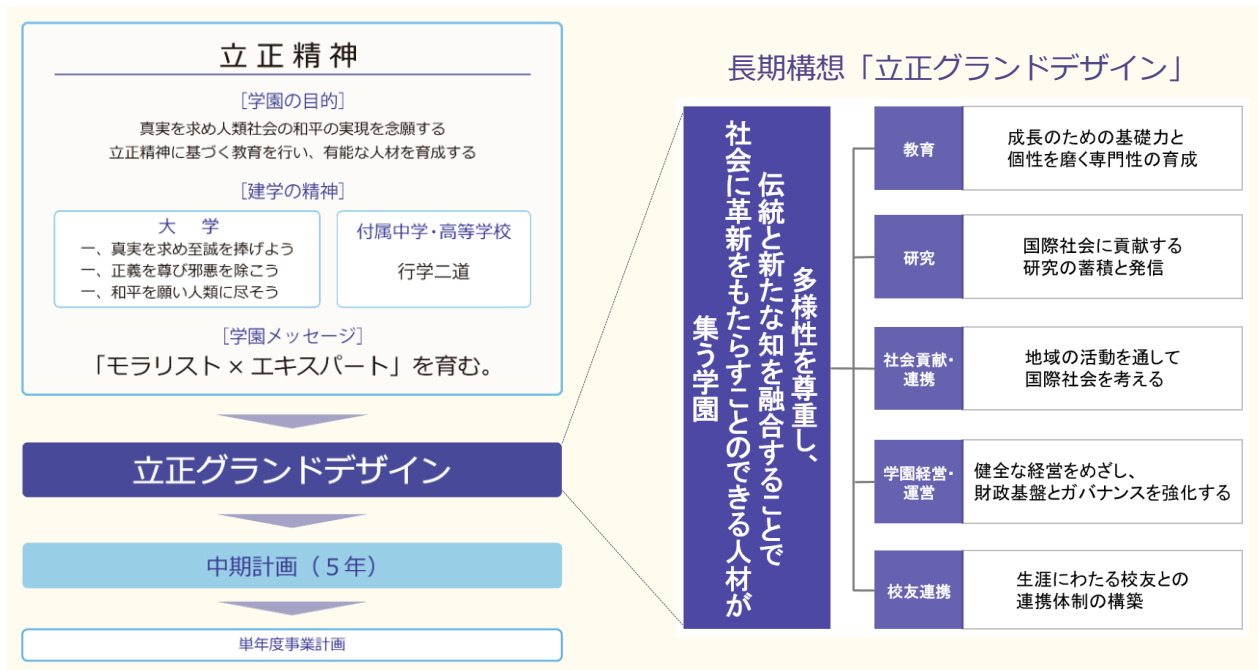
本学園の新たな中・長期計画を遂行すべく、教職員一同の叡智を結集し、教育・研究、社会貢献の推進に向けて異体同心で取り組んでまいります。今後とも150年を超える歴史と伝統を持つ本学にみなさまの深いご理解をいただくとともに、新しい時代を拓く人材の育成により一層のご支援を賜われますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

学校法人立正大学学園 理事長 生駒 雅幸

I. 長期構想および中期計画

1. 長期構想「立正グランドデザイン」

立正大学学園は、開校 150 周年を迎えた令和 4（2022）年に、永続的に学園を発展させていくための指針となる長期構想「立正グランドデザイン」を策定しました。本構想では、本学園がこれまで培ってきた歴史や伝統と革新とが融合する、新たな学園の姿を示しています。



2. 第 2 次中期計画および単年度事業計画

長期構想「立正グランドデザイン」を具現化していくための第 1 フェーズとして、5 か年の行動計画である第 2 次中期計画（2023～2027 年度）を策定しました。第 2 次中期計画では、以下の観点から 39 個の具体的なアクションプランを立案し、各年度策定する事業計画において具体化を図り確実な実行に結び付けています。

[第 2 次中期計画基本方針と 5 つのフレーム]

基本方針：社会ニーズへの対応とオリジナリティの確立

- I 教育の質向上（大学・大学院・中高）
 - 教学マネジメント体制の強化等を通じた学修者本位の教育へのより一層の転換
- II 研究活動の活性化 - 本学の特色を活かした異分野研究活動によるイノベーションの創出
- III 社会貢献・連携 - 社会ニーズを捉えた活動の推進と教育活動への実装
- IV 学生受入・支援 - 多様な生徒・学生・教職員がお互いの個性を認めあうキャンパスづくり
- V 経営基盤強化 - 教育研究活動の持続可能な発展と整備および学園改革を進めるための基盤強化

※長期構想および中期計画の詳細は本学公式ホームページ（下記 URL）よりご覧ください。

https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/index.html

II. 重点施策

今年度は以下の4つを本年度重点施策として掲げ、立正グランドデザインおよび立正大学学園第2次中期計画の実現に向けた確実なステップアップを図ります。

1. 教育開発センターの機能強化と全学横断的教育の充実

教学組織の再編により、4月に発足する教育開発センターは、FDの充実、教育開発、教学IRや共通教育支援におけるさらなる機能の拡張のため、担当事務局等の体制整備を行います。

また、各種学生調査結果を活用した教学IR体制の整備、そして令和6(2024)年度から開設される新しい全学キャリア科目による全学共通教育の充実、中期目標に掲げた横断的科目の整理と整備を図ります。

2. 学生の多様性に応じた支援

大学スポーツ協会(UNIVAS)の積極的活用とともに、学生の正課外活動の支援と活性化を引き続き行います。

また、相談体制の充実や適切な学修環境の検討を行うための学生支援体制の整備を行うとともに、学生の多様なニーズに対応できる学生支援のあり方、窓口機能についての検討を行ってまいります。

3. 学内共同・産学共同研究の推進による研究環境の向上

令和5(2023)年度より開始した「立正100人論文」や研究推進・社会貢献センター運営委員等からの情報収集を活発に行い、研究シーズの把握と効果的なPRを進めます。また、産学連携コーディネーターや地域連携コーディネーターの機能を維持・発展させ、研究者が共同研究に集中できる環境を構築します。リサーチ・アドミニストレーター(URA)についても、養成講座への参加を幅広く呼びかけ、学内での育成を推進します。埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)との連携、既存の協定機関との連携強化を図り、特色ある学内共同・産学共同研究を推進していきます。

4. キャンパス・マスタープランに基づく持続可能なキャンパスづくりの推進体制の構築

持続可能なキャンパスづくりを確実に実行するため、長期にわたり質の高い学修環境の整備を誘導し、全学的な施設整備の指針となる「キャンパス・マスタープラン」を円滑に運用します。具体的には、「施設検討委員会（仮称）」を設置し、キャンパス計画の理解を深めるとともに、アカデミックプランや経営戦略の見直し、社会情勢、学生ニーズの変化など、記載された事項と実現との不具合についての検証と事項の再検討を行い、キャンパス・マスタープランの修正、あるいは次期計画の作成を行います。



III. 主たる事業

重点 当年度重点施策関連事業

中期 中期計画関連事業

<大学>

教育

教学マネジメント体制の整備と教育開発センターの機能強化による「教育改革の推進と教育の質保証」 重点 中期 	
目的	教学マネジメント体制の整備による教育の質保証および教育改革を推進する。また、新しい体制のもとでFD・SDの高度化、教学IR機能の集約・強化、学修成果可視化を推進する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新教学マネジメント体制（高等教育研究機構、教育開発センター）の運用開始 ・FD・SDの高度化に向けた研修会の企画・開催 ・各種調査の実施と回収率向上の取り組み ・学修成果可視化、活用方法の検討

全学共通科目の構築 重点 中期 	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生が履修可能な教育プログラムを設け、立正大学らしい特色ある全学共通科目を開設・運用し、全学DPを担保する。 ・学生数1万人規模の総合大学としてふさわしいキャリアサポートを実現する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・開設初年度となる全学共通キャリア教育科目（「ライフ・キャリア概論」「キャリア・デザイン入門」）の円滑な運用 ・2023年度より開講した「データサイエンス入門」の実績を踏まえた、2024年度当初に文部科学省へ「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定申請と同科目の更なる全学展開 ・本学における全学共通科目（立正大学の特色を生かした教養的科目の設置など）の位置付けや枠組みの構築

多様な教育手法の導入		中期
目的	柔軟性のあるアカデミック・カレンダーを導入し、アクティブラーニング、e-learning 等の ICT を活用した授業、補習授業、入学前教育、デジタル教材の利活用など多様な教育方法による授業を展開する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年度の新アカデミック・カレンダーの運用開始に向けた関連規約類の整理と学内環境整備 ・80%以上の科目でアクティブラーニング手法の導入 ・多様な教育方法の展開に向けた授業支援室等の相談員配置の調整、導入機器等の選定などの環境整備計画の作成 	

学修成果の把握と可視化に向けた情報整備		中期
目的	ディプロマ・ポリシーに即したアセスメント（アセスメントテスト、学修成果・満足度調査、学修成果検証等）の実施と学修成果可視化に向けた情報整備・手法を開発する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントテストの実施と受検率向上（受検率：60%目標） ・学修成果・満足度調査の実施と回答率向上（回答率：60%目標） ・情報整備と手法開発 	

新 LMS の導入と利活用の推進		中期
目的	対面・オンライン・オンデマンド授業など新たな授業スタイルに利用可能な e-Learning 教材を活用し、メディア授業をより効果的・効率的に運用できる教学情報システム（LMS）の新システムへの移行および環境整備を行う。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システムのトライアル運用開始 ・利活用促進のための FD 研修会の開催 	

大学院における教育の充実と研究の深化に向けた改革推進		中期
目的	大学院教育の充実と研究の深化に向けた改革を推進し、定員未充足を解決する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生に特化したキャリア形成支援策の作成 ・各研究科における相互履修制度を活用したプログラムの検討 ・就学・留学生支援策の作成（関連規約類の改正・制定と学内外への周知） ・社会ニーズに応えるリカレント教育プログラムパッケージ（カリキュラム）の制定 ・多様な教育方法の導入 ・海外協定校との協定締結および関連規約類の整備 	

高大連携の強化		中期
目的	付属校等の高等学校と連携し、社会で活躍できる人材を育成するための一貫教育体制を確立する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・付属校同様の教育交流を行う高校（提携校）の開拓 ・提携校への新規プログラムの提供 ・高等学校と大学の連携強化を目的とした合同研修実施の検討 	

MLA と NLC による学修支援体制・研究支援体制等の拡充		中期
目的	図書館における学修支援・研究支援体制等の改編を通じ、学生・教職員の幅広い学びや活動を支援する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、博物館、古書資料館、ロータスギャラリー、文書館、学部資料室における業務連携体制づくりと企画実施 ・外部機関との連携の検討 ・RiLLCom、RiLLPort、RiLLFore 等を活用した創造的学修支援の実施 	

多様な資質を持った学生受け入れのための入試制度分析		中期
目的	入試制度の分析・検討を行い、建学の精神およびアドミッション・ポリシーに合致する多様な資質を持った学生を広く安定的に受け入れる。	
当年度達成目標	指定校制推薦選抜入試と総合型選抜入試の拡充による安定的かつ多様な学生の受け入れ	

研究

学内共同・産学共同研究の推進による研究環境の向上		重点	中期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究専念時間の確保と研究の高度化を推進する。 ・研究の効率化のための支援体制を強化する。 ・若手研究者、博士後期課程学生に対する研究環境を整備し、研究支援制度を拡充する。 		
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究シーズの把握と効果的 PR ・リサーチ・アドミニストレーター（URA）養成講座参加促進・URA 育成推進 ・共同研究助成制度の見直しと充実 		

外部研究資金の獲得		中期
目的	外部資金獲得により研究を活性化し、研究・教育の好循環環境を創出する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費申請教員比率（過去 5 年間）の目標値（45%）の達成 ・支援策のあり方の検討と新たな施策の実行 ・第 1 次中期計画「競争的資金の獲得」の実績値の分析と可視化 	

研究不正防止対策の強化		中期
目的	高い研究倫理に基づく研究を全学展開する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関連規約類の検証と学内諸組織における研修状況の把握 ・研究不正防止対策の課題整理と対応方針案の協議、作成 	

建学の精神に基づく特色ある異分野融合研究の推進		中期
目的	総合大学としての特色を活かし、国際社会に貢献する異分野融合研究を行うことにより、社会課題の解決と研究ブランディングを推進する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異分野交流の機会創出として「立正 100 人論文」を継続実施 ・研究者、企業、自治体などの分野を超えた対話・研鑽の機会として意見交換会を実施 	

研究成果・学術資産のデジタル化および公開 中期	
目的	DX等の技術を活用し、総合大学としての学問特性を踏まえた研究成果や学術資産の公開を推進する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 登録対象に関する検討の継続と運用のための規約類の整備およびQ&Aの執筆 研究成果公表に関する説明会・研修会の開催 博物館・図書館・学部等関連部局との情報交換とヒアリング、目録案の作成

学生支援

学生の多様性に応じた支援 重点 中期	
目的	大学スポーツ協会（UNIVAS）を積極的に活用し、課外活動団体への支援を行い、正課外活動の活性化を行う。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 大学スポーツ協会（UNIVAS）を活用した、研修・セミナー等への参加 遠征支援、奨励支援、指導者支援など課外活動団体への支援

学生生活支援・協議体制の再編成・強化 中期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対する支援窓口の分散を解消し、適切な支援を迅速に行うための支援窓口の統合を実現する。 学生の多様なニーズに対応するため、専門性を備えた相談員（キャンパスソーシャルワーカー等）を配置する。 合理的配慮の提供義務化に備え、教職員の理解増進と障害学生支援室の機能強化を図る。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 学生の多様なニーズに対応できる支援の枠組みを検討し、学生生活支援に関する教職協働を実現するための教学組織（委員会）を再編成 さまざまな障害に対応した障害学生支援の対応フローと各部署の役割分担を再検討し、障害学生支援マニュアルの改訂を行い周知 ボランティアセンターの品川キャンパスにおける拠点の設置とスタッフの配置

多様な進路を視野に入れた課外講座の再編・拡充		中期
目的	専門職公務員等の多様な進路を視野に入れ、課外講座を再編・充実させる。	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員への理解を深めるため、正課の「キャリア・デザイン入門」に授業を設定 ・課外講座のガイダンスにて当該専門職の紹介を実施 	

課題解決型インターンシップの創設		中期
目的	アクティブラーニング方式を採用するインターンシップを開設・受講し、問題発見能力・問題解決能力や現場適応力を身につけた、雇用先で即戦力となりうる学生を養成する。	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ企業（6社）の開拓・拡大 ・課題解決型インターンシップの実施（各社5名程度） 	

英語外部テスト（CASEC）の実施		中期
目的	受験者に合わせて出題難易度が変動する英語外部テスト（CASEC）を実施し、英語を学びたいと思っているが苦手意識のある学生の学習意欲を向上させる。	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・語学研修および中・長期留学事前事後の CASEC 受験実施 ・英語に苦手意識がある学生などへの受験機会の提供 ・CASEC 受験回数 140 回（70 人×2 回） 	

グローバルカフェおよびイングリッシュキャンプの実施		中期
目的	グローバルカフェの設置やイングリッシュキャンプの実施を通じ、日常的に多言語に触れるキャンパスづくりを行い、グローバル化の推進を図る。	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年度からの実施開始に向けたグローバルカフェの設置準備 ・イングリッシュキャンプの企画・実施 	

キャンパスのグローバル化とダイバーシティの推進		中期
目的	立正精神に基づき「立正大学学園憲章（仮称）※」を制定し、この憲章のもとキャンパスの多様化とグローバル化に向けた施策を行う。 ※第2次中期計画策定当初は「和平キャンパス宣言（仮称）」と呼称していたが、再検討の後、「立正大学学園憲章（仮称）」に変更。	
当年度 達成目標	・「立正大学学園憲章（仮称）」の制定および周知・公表 ・同憲章に謳われている内容の実現に向けた具体的な方策の検討	

安心・安全なスポーツ活動のための環境整備		中期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「立正大学スポーツ憲章」のもとでスポーツ倫理を確立し、スポーツの学園・大学内の位置付けを明確化する。 ・安全・安心なスポーツ環境を適切に整備し、選手の育成、学修の充実、地域連携と社会貢献を目指す。 ・強化クラブと熊谷キャンパスのスポーツ施設を核とし、学生、教職員、校友会、地域の後援会等が構成員となる、スポーツ・コミュニティの設立を目指し、応援文化を醸成する。 	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・強化クラブ活動に関連する規約類の整備 ・強化クラブ活動に関連する学外組織（チーム・企業・自治体等）との関係構築と協力関係の推進 ・協賛候補となる企業や団体に関する情報収集と関係構築のための検討 	

地域・社会貢献

地域との連携強化（品川区・大田区・熊谷市など）		中期
目的	キャンパス立地自治体の地域課題解決にコミットし、積極的に貢献することで、大学と地方自治体を持つ知識・情報・ノウハウ等をもとに協働し、地域社会における諸活動を学生教育の実践の場としていく。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学内推進体制の環境整備 ・自治体等との情報共有体制の構築 ・学内における既存の取り組みと地域課題の把握 	

生涯学習プログラムの開発と拡充（地域社会や校友会との連携）		中期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年齢層とニーズに対応した生涯学習プログラムを新規開発し、大学内にノウハウを蓄積する。 ・校友会や地元自治体との連携強化により、受講者数の増加を図り、地域の知の拠点化を推進する。 	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニーズに対応した新規プログラムの開設 ・既存生涯学習プログラムの改善 ・生涯学習プログラムのニーズ調査や他大学の状況調査結果を踏まえた基本方針と実施計画の策定 	

防災力の向上と地元地域との連携		中期
目的	大規模地震を想定した大学の防災力を向上させ、キャンパスの所在する自治体や地元自治会等との関わりを深めるとともに、学内における防災リテラシー力を向上させ、地元地域の防災をはじめとする諸問題にコミットする。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度の防災訓練内容とマニュアル類の再点検と安否確認システム等の利用結果の検証 ・キャンパスの所在する自治体と結んだ協定書の具体的内容について、再確認と現状把握および課題の抽出 ・安否確認サービス応答率の向上（目標値：学生 30%以上、教職員 80%以上） 	

博物館やロータスギャラリー特別展示室を活用した情報発信と社会貢献		中期
目的	博物館やギャラリーを大学と地域社会との接点と位置付け、開かれた施設運営を目指すとともに、総合大学としての学問特性を活かし、研究成果や学術資産の国内外への発信と、それらを活かした社会貢献を推進する。	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館とロータスギャラリーの改革検討プロジェクトチームの編成 ・ 博物館とロータスギャラリーの基本方針・年間計画の検討・整備 ・ 上記基本方針・年間計画を推進するための体制構築 	

< 付属中高 >

国際化する社会に向けて英語教育を一層充実させるため、外部英語検定試験のスコアアップを図ります。また、英会話によるコミュニケーション力を向上させるため、少人数教育による授業を行います。夏休みには英国や米国への短期語学研修や福島県のブリティッシュヒルズでの English Camp を実施します。

また、ICT 教育をさらに推進し、1 人 1 台のタブレット端末を導入し、電子黒板を利用した双方向型・対話型の授業展開を行います。

本校のグラウンドは授業や部活動で毎日使用していますが、馬込キャンパス移転 12 年目を迎え、最近では人工芝の劣化が進み、張り替えと改修工事が急務となっているため、令和 6（2024）年度中に実施完了する予定です。

本校受験者・入学者の確保も重要です。より多くの生徒募集を行うため、入試広報部を中心に都内だけでなく近県でも学校説明会を実施するとともに、オープンスクールや入試問題解説会など多角的な募集活動を積極的に実施していきます。

教育

ICT を活用した教育手法の充実と学校運営の推進 中期	
目的	ICT を活用した過去 5 年間の教育実績の蓄積を踏まえ、より良い教育手法を構築する。そのために、新機器・機能等の操作方法の研修を実施し、学校での授業と家庭学習をつなぐための機器・ツールの活用を行うことで、教育効果の充実を図る。
当年度達成目標	・教員・生徒の ICT や学習支援ツールの活用状況の測定 ・有効活用のための施策検討、実行

発表力を鍛錬する R-プログラムの推進 中期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが主体的に学び、自己理解を推進することで、社会の中でリーダーシップをとれる人間性を育成する。 ・学習意欲を喚起し、能力を最大限に発揮するための基礎力を育てる。 ・情報化社会の中で複数の情報や意見を踏まえながら、根拠に基づいた考えを持つようになるようにする。 ・「書くこと」への抵抗感を無くし、豊かな表現力を養う。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内での意見発表を活性化させる方策の検討、実施 ・社会への意見発表の支援

生徒支援

馬込キャンパスグラウンド整備	
目的	体育の授業およびクラブ活動の安全のため、馬込キャンパスグラウンドの人工芝の張り替え・改修工事を行う。
当年度 達成目標	グラウンド人工芝の張り替え・改修工事の完了

生徒募集

中期的な入試戦略の確立 中期	
目的	若年人口が減少する中で、安定的な入学者数を確保するため、受験生保護者の信頼を獲得できるような中期的な広報戦略を確立し、「行学二道」に示される立正の学びに合った、向上心を持ち自己を高めていこうとする生徒を集める。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の調査・分析結果に基づく中学校・塾訪問の強化（高等学校） ・新入生本人や保護者への聞き取りやアンケート等による効果測定 ・多様な入試制度の検討・実施

< 基盤 >

施設・設備

キャンパス・マスタープランに基づく施設整備の体制構築		重点	中期
目的	全学的な施設整備の指針となるキャンパス・マスタープランを運用し、持続可能なキャンパスづくりを実行する。		
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「施設検討委員会（仮称）」の設置 ・品川キャンパス・マスタープラン（平成 27（2015）年策定）および熊谷キャンパス・マスタープラン（平成 30（2018）年策定）の進捗状況の把握や評価、整合性のチェック ・キャンパス・マスタープラン記載事項の検証と再検討および修正、次期計画の作成 		

管理運営

ガバナンス・コード遵守状況の点検と改善サイクルの確立		中期
目的	改正私学法を意識し学内組織の点検を行い、ガバナンス体制が強化される組織改革を目指す。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス・コード遵守状況の点検結果に基づく組織運営における問題点等の洗い出しと対応策の提示 ・改正私学法に対応した学園規約類の整備 	

教職員の多様化		中期
目的	『「モラリスト×エキスパート」を育む。』の理念のもと、人種・性別・年齢・障害等に関わらず、自分の能力を活かしていきいきと働ける環境を実現するために、教職員の構成を多様化し、多様性（ダイバーシティー）環境を実現し、活力ある学園を実現する。	
当年度達成目標	多様性推進のための仕組みの検討と策定	

多様な働き方の創出とワークライフバランスの調和

中期

目的	多様な働き方の創出および DX の推進やワークライフバランスの調和を通じて、労働生産性を向上させ、組織の活性化を推進する。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「職員意識調査」の調査結果に基づく現状把握および課題の抽出 ・ダイバーシティ環境への更なる対応を含む新たな制度の検討、設計と一部実施

卒業後の校友会活動の担い手づくりを含めた校友連携強化

中期

目的	学生が在学中から校友会組織を認知し、卒業後の校友会活動の担い手となるよう、学生生活での支援および就職支援が出来る体制作りを進めることで、卒業生が在学を支援する関係構築を目指し、校友連携を強化する。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会ホームページリニューアルによる情報発信内容の充実 ・卒業生情報管理システム整備による情報管理の効率化

経営

中期財務計画の策定 中期	
目的	安定的かつ持続可能な財務基盤を確立・維持し、資金面から充実した教育研究環境を提供する。
当年度達成目標	決算や学内外の財政状況を踏まえた中期財務計画の策定・見直し

補助金獲得に係る学内横断的な協議体制の整備 中期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の収益増加を目指す諸施策の一環として補助金獲得額（一般補助・特別補助）の増加を目指す。 ・日々の業務の中で補助金獲得を意識するための素地をつくる。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一般補助・特別補助の申請要件の理解を目的とした部署間協議体制の確立 ・補助金申請要件と現状の不足項目の確認と課題整理および学内共有

広報体制の整備・強化 中期	
目的	立正グランドデザインおよび第2次中期計画の進捗について広く社会に周知し、知名度を向上させると同時に、学内向け広報を充実・強化する。また、広報体制を整備・強化し、迅速、効率的かつ効果的な広報を実現する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学園広報戦略に基づく新広報体制の実施 ・非認知層、認知層に向けた認知度向上のための SNS（Instagram、note+）の運用開始 ・プレスリリースの採択率を上げるための施策の実施

財務

< 予算編成方針 >

令和5（2023）年度からスタートした第2次中期計画では、教育の質向上や研究活動の活性化を図るとともに、中長期の修繕計画を策定・推進することにより教育研究基盤の安定を目指しています。施設の修繕については多額の経費を要することや、さらに諸物価の高騰により、支出がますます膨らむことが予想されます。また、収入面においては、大学における入学定員の充足が課題となっており、財政は厳しさを増しています。

このような状況のもと、教育研究活動の安定した遂行と十分な財政基盤の確保の両立を図るべく、費用対効果が最大化するよう十分に検討した予算編成を行います。

< 基本方針 >

- (1) 申請上限額の遵守について
 - ・対前年度当初予算と同額を申請上限額とする。
- (2) 未使用残の削減について
 - ・未使用残の多い項目については、実績ベースでの申請とする。
 - ・経費の増加が見込まれる項目については、スクラップアンドビルドを徹底し、上限額の範囲内での執行に努める。
- (3) 積算の徹底について
 - ・予算申請額は十分な根拠をもって積算し、年度途中における予算の補正は、当初予算の段階で想定し得なかった事案に限定する。
 - ・老朽化施設の修繕費は、各施設の状況を的確に把握して見積もり、優先度を考慮しながら年次毎の修繕計画のもとに申請する。
- (4) 特別予算について

以下の予算は特別予算として位置づけ、支出の必要性を審議のうえ配賦を行う。

 - ・学長政策費
 - ・学園ブランディング戦略予算費
 - ・予備費
- (5) 収入予算について
 - ・教育活動収入は、過去実績を基に今後の推移を考慮して見込む。引き続き学生生徒数の着実な確保をはじめ、補助金、寄付金等の外部資金の獲得に努める。
 - ・資産運用収入は、市場動向の変化に対応しながらリスク回避に努めた投資を前提とする。
- (6) その他
 - ・現金預金および換金性の高い債券を合わせて約 180 億円を保持する。
 - ・金融資産を約 500 億円保持する。



学校法人 立正大学学園 令和 6（2024）年度事業計画書

（問合せ先） 学長室 総合経営企画課 03(3492)6872

※事業計画書は学園 HP からご覧いただけます。

ホーム > 学校法人立正大学学園 > 立正大学学園の概要 > 事業計画と事業報告 > 事業計画

http://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/plan_report/business_plan.html

令和 6（2024）年 3 月 25 日 理事会承認（令和 6 年 4 月発行）